
愛想笑いの代償

たま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛想笑いの代償

【Nコード】

N2895T

【作者名】

たま

【あらすじ】

いつの日から

子供のころ見たアニメの主人公よりも成長したんだろうか？
成長していないつもりで
色々なことを

私は覚えてしまったの、、

いつの間にか、、

小さいころ見ていたアニメの主人公なんかよりも私は成長していていつの間にか、、

人に甘えることも知っていたの
そして、

私は、愛想笑いを覚えたの

「おめでとう」

笑えないよ、

でもね笑わないと駄目なの

成長なんてしたくないものね

私をもっと子供なら、、なんてね。

この場で泣いて、叫んで、必死で貴方を引きとめられたのに
私はなんて弱いのだろう

どうして貴方はそんなに幸せそうに笑うの？

そんな顔されたら泣けないじゃない

笑わないといけないじゃない

「おめでとう」なんて思っていないのに、

成長とともに私は嘘をつくのも上手になったみたい

「おめでとう」

愛想笑いなんて貴方は見破るのでしょ？

だから「ありがとう」なんて言わないで

「ごめんな」

嗚呼、私はやっと子供に戻れた

涙がひとつ心の中ではじけて零れたの
頬には流れない涙がひとつ、ふたつ
こんな言葉は聞きたくなかった

成長なんてしていないな

どんなに時が経っても

私は大人なんて自覚はなくてまだ子供のままなの

でもね、もう子供じゃないの

最後にとびきりの愛想笑いを貴方に

だって女なんだから

涙は見えないところでこっそり流すものでしょう？

BY T A M A / 愛想笑いの代償 f i n ,

（後書き）

いつの間にか、涙を流すことが減りました
転んで泣いて

怒られて泣いて

悔しくて泣いて

小さい頃はよく泣いてました

自分自身はまだまだ子供なのに

小さい子からすれば自分は大人の分類で

それでも、大人なんて実感はなくて

まだまだ子供、、

でも、もう子供じゃないんだなって。

自分はきっと泣いて誰かを引き止めることはできないと思うんです
この作品の子と同じように愛想笑いでごまかしてしまいそうです

少しでも懐かしいような淡い感情を持っていただけなら幸いです

BY TAMA

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2895t/>

愛想笑いの代償

2011年10月6日08時13分発行